



Title	【定年退職教授の履歴および主要業績】 臼井伸之介教授
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 2022, 48, p. 253-257
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/86871
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【定年退職教授の履歴および主要業績】

うす い しんのすけ
臼 井 伸之介 教授

うす い しんのすけ
臼 井 伸之介 教授

- 1979 年 3 月 大阪大学人間科学部人間科学科 卒業
- 1982 年 3 月 大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程 修了
- 1987 年 3 月 大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程 単位取得満期退学
- 1987 年 4 月 大阪大学人間科学部助手
- 1990 年 4 月 労働省産業安全研究所研究員
- 1995 年 12 月 博士（人間科学） 大阪大学
- 1997 年 4 月 大阪大学人間科学部助教授
- 2003 年 4 月 大阪大学大学院人間科学研究科教授
- 2012 年 4 月 大阪大学大学院人間科学研究科副研究科長（2014 年 3 月まで）
- 2016 年 4 月 大阪大学大学院人間科学研究科副研究科長・教育研究評議員（2018 年 3 月まで）
- 2020 年 4 月 大阪大学大学院人間科学研究科長（2022 年 3 月まで）
- 2022 年 4 月 大阪大学名誉教授（予定）

臼井伸之介教授は、1979 年 3 月に大阪大学人間科学部を卒業し、1987 年 3 月に大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程を単位取得満期退学した後、1987 年 4 月に大阪大学人間科学部助手に採用された。その後、1990 年 4 月労働省産業安全研究所への異動を経て、1997 年 4 月に大阪大学人間科学部助教授に着任、2003 年 4 月大阪大学大学院人間科学研究科教授に昇任した。この間、1995 年 12 月に大阪大学から博士号を授与されている。また 2012 年 4 月から 2014 年 3 月まで大阪大学大学院人間科学研究科副研究科長、2016 年 4 月から 2018 年 3 月まで大阪大学大学院人間科学研究科副研究科長・教育研究評議員、2020 年 4 月から 2022 年 3 月まで大阪大学大学院人間科学研究科長を務めるなど、大阪大学と人間科学部・人間科学研究科の発展に尽力するとともに、2022 年 3 月 31 日限りで定年退職するものである。

臼井教授の研究領域は、安全行動学、産業心理学、人間工学である。特に日常生活や産業場面で発生するヒューマンエラーの発生メカニズム、および事故発生の背景にあるヒューマンファクターを心理学の観点から解明し、得られた結果を広く社会に還元することにより、ヒューマンエラーや事故防止に資する研究を行ってきた。

20 世紀半ば以降の科学技術の飛躍的な進展に伴い、航空機墜落事故や化学プラント爆発事故などのシステム災害、また労働災害や交通事故など日常生活での事故は数多く発生し、その防止は現代社会の重要な課題となっていた。事故のほとんどには人間が関与するため、人間の失敗に関する研究の重要性は古くから認識されつつも、方法論的困難性等から、その科学的研究は、20 世紀初頭の Freud の精神分析学的研究を除けば、研究の俎上にあげられることは少なかった。そのような状況下で、臼井教授はいち早くヒューマンエラーの認知的側面に

着目し、実験法や調査法を駆使してその発生メカニズム解明に接近したわが国のヒューマンエラー研究の先駆的存在である。大学院・助手時代には、アイカメラを用いた単純反復作業中のエラーに関する実験的研究、また自動車内にキーを閉じ込めるエラーを、1446名の当該ドライバーを対象に調査した研究など、非常に独創的視点から、ヒューマンエラーの認知メカニズムを解明、モデル化した。さらに電力会社作業員を対象に、インシデント（ヒヤリハット）調査を実施し、その内容分析から、「ヒューマンファクター・トレーニング」と称する訓練手法を開発、その社内展開により、電力会社作業員の安全性向上に寄与した。労働省産業安全研究所に異動後は、わが国の労働災害で死者数が最も多い、建設作業中の高所からの墜落事故に着目し、現場作業員を対象とした実験、調査などを通して、その防止研究に携わった。得られた研究結果は、厚生労働省の作業足場に係る労働安全衛生規則の改正などに反映されている。大阪大学人間科学部に赴任後は、ヒューマンエラーのみならず、意図的な不安全行動、すなわち規則違反の発生要因にも着目し、種々の実験、調査を通して、効果的な安全教育手法の開発に注力した。研究の成果として、エラー体験プログラムソフトおよび不安全行動誘発・体験システムを開発し、現場作業員を対象にその有効性を確認、研究成果の現場への還元を引き続き実施している。

大阪大学および人間科学部・人間科学研究科の管理運営に関しては、研究科長および2度の副研究科長の計6年間、執行部として、部局の運営に深く関わった。2007-2009年度には、評価委員長として、第一期中期計画の4年目終了時に国に提出する現況調査票を作成した。さらに2004-2010年度には、部局安全衛生委員会委員長として、大学における安全対策とリスク管理ガイドブック「リスクのくすり」を作成し、2004年の独立行政法人化に伴う、部局の安全衛生管理体制の基盤作りに尽力した。

教育活動では、指導教員として86名の学部学生、25名の大学院生の教育・研究指導にあたり、18名の修士論文主査、9名の博士論文主査を担当した。また指導学生の受賞歴としては、人間科学部賞3件、人間科学研究科賞4件、学会から論文賞6件、優秀発表賞20件があり、優秀な学生を社会に送り出した。

社会的活動では、人事院、厚生労働省、国土交通省、経済産業省など省庁の安全に係る委員、また兵庫県（公立高校入試ミス再発防止委員会）、大阪市（医療事故調査委員会）など地方自治体や、西日本旅客鉄道株式会社（新幹線重大インシデントに係る有識者会議）など企業の委員を歴任し、広く社会の安全性向上に寄与した。また、学会活動では、日本心理学会、日本応用心理学会（第85回日本応用心理学会大会長）、日本人間工学会、日本認知心理学会、関西心理学会、産業・組織心理学会、電子情報通信学会、日本交通心理学会で理事、評議員等の役を務めるなど、学会の運営に多大な貢献をした。

以上のように、臼井教授は、人間科学部・人間科学研究科の教育、研究、運営を通じて、その充実と発展に寄与するとともに、安全行動学、産業心理学等を含む学術研究と社会貢献の両立を通じて、学術振興に大きく貢献されている。

主 要 業 績

主要著書（分担執筆）

1. 臼井伸之介 (1995)「ヒューマンエラー」蓮花一己・西川正之編『現代都市の行動学』福村出版
2. 臼井伸之介 (1999)「ヒューマンエラーと労働災害」産業安全技術総覧編集委員会編『産業安全技術総覧』丸善
3. 臼井伸之介 (2007)「労働災害のリスクと作業安全」三浦利章・原田悦子編『事故と安全の心理学』東京大学出版会
4. 臼井伸之介 (2011)「産業安全におけるヒューマンエラーと違反」原田悦子・篠原一光編『現代の認知心理学 4 注意と安全』北大路書房
5. 臼井伸之介 (2015)「事故とヒューマンエラー」森下高治・蓮花一己・向井希宏編『現代社会と応用心理学 4 メンタルヘルス・安全』福村出版
6. 臼井伸之介 (2019)「ヒューマンエラーと不安全行動」芳賀繁編『産業・組織心理学講座 第4巻 よりよい仕事のための心理学：安全で効率的な作業と心身の健康』北大路書房

他 10 冊

主要学術論文

1. 臼井伸之介 (1984) 作業中の錯誤に関する実験的研究 (I), 労働科学, 60(8), 365-371.
2. 臼井伸之介 (1987) 自動車内キー閉じ込みエラーの研究, IATSS Review (国際交通安全学会誌), 13(2), 43-52.
3. 臼井伸之介 (1993) 高齢者危険感受性に関する実験的研究, 産業安全研究所特別研究報告, RIIS-SRR-NO.13, 33-45.
4. Usui, S. and Egawa, Y. (2002) Psycho-physiological analysis of mental workload at an elevated work place, Japanese Psychological Research, 44(3), 152-161.
5. Usui, S., Egawa, Y., Shoji, T., and Nakamura, T. (2005) An experimental study on mental workload at an elevated workplace: Comparing elderly and young workers, Japanese Journal of Applied Psychology, 30(2), 73-78.
6. Nakai, H. and Usui, S. (2017) How do user experiences with different transport modes affect the risk of traffic accidents? From the viewpoint of licence possession status. Accident Analysis and Prevention, 99, 242-248.
7. 臼井伸之介 (2020)「不安全行動はなぜ起きる？－ヒューマンエラー・規則違反の心理的発生メカニズム－」, プレストレスコンクリート, 62(2), 22-26.

他 77 編